

評価シート（年度評価）

徳川園の管理運営状況

1 基本情報

＜所管局：緑政土木局＞

指定管理者名	徳川の杜グループ		
主な業務内容	徳川園の管理運営業務		
施設の所在地	名古屋市東区徳川町1001		
評価対象期間	令和5年4月～令和6年3月	指定管理期間	令和4年4月～令和14年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
管理体制 及び協働	1 管理体制	職員配置	○	令和4年度に発足した花壇ボランティアに対しては花壇講習や植物を使った講座なども行い、楽しみながら活動を継続してもらえよう工夫した。4年ぶりに開催された山車揃えは主催者として各所と調整し事故・混乱なく実施することができた。
		緊急時の体制	○	
		人材育成等	○	
	2 協働	市民等との協働	◎	
維持・管理 運営等	1 維持管理	園内清掃	○	モミジや桜などは自然樹形に留意した枝抜き剪定を行った。スイレンやハスは通年枯葉取り、間引きを行い美観の向上に努めた。松は計画に沿って剪定を行った。牡丹や花菖蒲は種類を減らさないようバックヤードでの育成、暑さ対策などきめ細かい管理を行った。病害虫などにも注意し、補植・新植を計画的に行った。
		建物・設備の管理	○	
		保守・点検・修繕	○	
		植物管理	◎	
		管理水準の維持	○	
		関係書類の調製・保管	○	
	2 運営管理	利用者アンケートの実施	○	庭園をより楽しめるよう、要望に応じてベンチの増設、樹名板の設置などを行った。 令和5年度からは撮影の行為許可が指定管理者にうつり、多くの申請件数があるため、受付方法の変更などをホームページで分かりやすく広報した。
		利用者ニーズの把握と反映	◎	
		利用者サービス向上策	◎	
		接客・接遇向上の取組み	○	
		苦情・要望に対する適切な処理	○	
		個人情報の適切な管理	○	
	3 この施設特有の管理	庭園の管理	◎	徳川園を代表する牡丹と花菖蒲は希少品種の確保、株数拡大に努め、樹勢が鈍くなった大木のクスノキは四ツ目垣で囲い坪庭風に仕立て、路圧軽減、土壌改良を図るなど、景観に配慮した対策を講じた。
		めざす公園像への取組み	○	
		美術館・蓬左文庫との連携	○	
	4 魅力増進・利用促進	魅力の増進策	◎	ソテツの藁巻きは従来の藁巻きに加え池田山公園の藁巻きを追加して見所とし、LEDスポットライトの増設、夜間ライトアップ時は水面に景色がよく映るようポンプを止めるといった、美しさにこだわり来園者が楽しめる取り組みを実施した。
		イベント等の実施	○	
		利用者への広報・情報提供の実施	○	
		利用者数の増加	○	
	5 収納金の処理業務	現金等の取扱い	○	
		関係書類の調製・保管	○	
自主事業	1 自主事業	事業計画に基づく自主事業の実施	○	予算額を超える指定管理料への還元がされた。また収益で駐車場の看板類刷新・照明のLED化など機能向上を行った。
		集客対策への効果	○	
		自主事業の収支及び還元	◎	
収支	1 収支	経費節減策	○	
		年間収支	○	
その他	1 その他	法令・協定の遵守	○	
		事業計画との比較分析	○	

【総合評価】

所管局のコメント・特記事項等

牡丹、花菖蒲は、希少品種の確保、株数拡大に努め、その他高木・中低木なども補植、新植を行い園内の見所の充実に努めた。
LEDスポットライトの増設により夕刻時からの景観と安全性の向上が図られ、さらに夜間ライトアップ時は水面に景色が美しく映るようポンプを止めるなどの工夫が図られた。
自主事業については、園内の自動販売機の設置や催事における飲食機会の増加など利用者の要望に応える取り組みを多く実施し、予算額を超える収益還元により照明のLED化など公園施設の機能を向上させたことは評価できる。

施設の現状

徳川園

施設の現状	施設概要							
	名古屋城本丸の東約3kmの地にある徳川園は、徳川御三家筆頭である尾張藩第二代藩主光友が、元禄8年(1695)に自らの隠居所として大曾根屋敷を造営したことを起源としています。光友の没後、この地は尾張藩家老職の成瀬、石河、渡邊三家に譲られましたが、明治22年(1889)からは尾張徳川家の邸宅となりました。昭和6年(1931)名古屋市は、第十九代当主義親から邸宅と庭園の寄付を受けた後、改修整備を行い、翌年「徳川園」として一般公開しましたが、第二次世界大戦の大空襲によってほとんどの建物や樹林などが焼失してしまいました。 戦後、現代的な都市公園として改修し、市民に利用されてきた徳川園は、平成13年(2001)から日本庭園として再整備を行い、平成16年(2004)に開園しました。 徳川園は、矢田川の河岸段丘を生かした高低差のある地形、既存の照葉樹の森、立体的に迫る大きな岩組みが特徴で、変化に富んだ景観を劇的に展開する構成としています。 なお、平成26年10月7日に「徳川園黒門」「徳川園脇長屋」「徳川園塀」「徳川園釣瓶井戸」「蘇山荘」「蓬左文庫旧書庫(教育委員会所管)」が、国の登録有形文化財に登録されました。 また、令和2年にはPark-PFI(飲食店、売店等の公募対象公園施設の設置又は管理と、その周辺の園路、広場等の特定公園施設の整備、改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度)を活用した公園再生事業に着手し、令和4年7月には施設の一部を公募対象公園施設・特定公園施設としてリニューアルしました。 なお、Park-PFIの導入により、令和4年度より10年間の指定期間としています。							
	市の収支状況(千円) (5年度決算見込み額)							
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	利用料金
	121,756	-	121,756	64,726	-	57,030	121,756	1,657
	特記事項							
	平成22年度から指定管理者制度を導入。							
管理運営指標の状況	取組状況							
	指標	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	入園者数	人	147,740	188,133	234,535	294,860		
	利用者1人あたり運営費	円	862	677	524	413		
	特記事項							

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費を記載